

—研究部會記事—

鐵鋼品質管理部會報告

品質管理部會は昭和 26 年 7 月第一回總會を開催して發足した。この部會は熱經濟技術部會と同じく主として通産省鐵鋼局が幹事役をつとめることとした。構成は綜合、製銑、製鋼、歴延の四委員會を設けた。後に綜合委員會より特殊鋼委員會が獨立し現在五委員會となつた。

(1) 綜合委員會 (委員長 山内二郎氏)

5 回の委員會を開き資料 34 の提出をみた。下部組織として組織、教育、調査の分科會を有し

イ) 組織分科會では各社の實例を調査し、品質管理擔當部門の任務を研究している。

ロ) 教育分科會では職長のための品質管理の手引の編集を行い丸善より出版した。

ハ) 調査分科會では内外文献の一覽表を作り、論文全譯を行わんとしている。

(2) 製銑委員會 (淺田讓氏)

5 回の委員會を開き、高爐操業に影響する原料面に重點をおき、銑鐵成分管理のための原料配合、粉鑽の影響、原料粒度、燒結鑽の管理、原料炭の受入管理、コークス性狀の爐況に及ぼす影響等を論議した。提出資料は 37 である。

(3) 製鋼委員會 (寺田二郎氏)

製鋼時間に關するもの、鋼塊の成分又疵と關するもの等共通議題と自由發表を中心に今まで 6 回を重ね、資料は 100 に上つている。

(4) 歴延委員會 (西村吉太郎氏)

鋼材の規格とか疵の研究、シートバーの拔取検査、加熱爐の管理等について 6 回資料數 70 以上になつている。

(5) 特殊鋼委員會 (佐々木吉備三郎氏)

綜合委員會特殊鋼分科會として 4 回、特殊鋼委員會として 2 回を開き先生方の指導を受けサンプリング問題、砂疵を中心にとり上げている。資料數分科會當時 53、委員會になつて以來 18。

海外に對しての資料交換の手段として世界冶金會議 (26 年 10 月) ECAFE 視察團東大見學 (27 年 10 月) 等の機會に本部會で品質管理の現狀をとりまとめ發表した。

11 月日科技の提唱するデミング賞記念第 2 回品質管理大會に賛成し、本部會としては第 2 回總會並びに品質管理討論會を次の如く開催した。

鐵鋼品質管理部會第 2 回總會

日時 昭和 27 年 11 月 24 日 (月)

會場 日本醫師會館講堂

千代田區神田駿河台 2 の 5 (お茶の水驛下車)

議事 一午前 9 時より一

(1) 挨拶 (10分) 日本鐵鋼協會品質管理部會長

山 岡 武

(2) 同 (20分) 通産省重工業局長

葦澤大義

(3) 同 (10分) 日本鐵鋼連盟調査局長

森山達郎

(4) 同 (10分) 日本科學技術連盟専務理事

小柳寶一

(5) 鐵鋼協會品質管理部會經過報告 (10分)

製銑課部會幹事 奥村 亨

(6) 同品質管理部會各委員會委員長報告 (130分)

綜合委員會委員長 山内二郎

製銑委員會委員長 淺田讓

製鋼委員會委員長 寺田二郎

歴延委員會委員長 西村吉太郎

特殊鋼委員會委員長 佐々木吉備三郎

一午後 1 より一

(7) 鐵鋼業における品質管理の重要性について

富士製鐵常務取締役 香春三樹次

(8) 會社經營より見たる鐵鋼品質管理

八幡製鐵取締役 島村哲夫

(9) 米國における工場管理

通産省製鐵課長代理 三井太信

本總會は日本科學技術連盟と共催の「鐵鋼業における品質管理討論會」の第 1 回として開催する。

鐵鋼業における品質管理討論會 (第 2 日)

日時 昭和 27 年 11 月 25 日 (火)

會場 日本醫師會館講堂

議事 一午前 9 時より一

(1) 鑄物用熔銑のサンプリングに關する工場實驗

(30分)

富士製鐵 佐伯正夫

(2) 燒結の脱銅について (30分)

小倉製鋼 堺 千代次

(3) コークス爐フリユ-温度の管理について(30分)

富士製鐵 沼 澄 夫

(4) 製鋼工場における品質管理及びその効果(30分)

日本鋼管 栗山俊治, 鈴木 武

(5) 製鋼工場における品質管理の一例(30分)

川崎製鐵 松 永 昭

(6) 鋼塊疵に関する統計的考察(30分)

住友金屬 大川 幹, 八田泰郎

一午後1時より

(7) 薄板工場における品質管理(30分)

大同鋼板 林 美 孝

(8) 帯鋼工場における品質管理について(30分)

日亜製鋼 竹 中 輝 夫

(9) 厚鋼板製造作業に関する工場実験(30分)

八幡製鐵 岡 本 一 生

(10) データ-の信頼性について(30分)

富士製鐵 平 松 一 允

(11) 分析法に對する分散分析法の應用について

(30分)

大同製鋼 上 森 正 勝

第21回製鋼部會

日時：昭和27年10月31日，會場：八幡製鐵KK技術研究所(八幡) 見學：八幡製鐵所，小倉製鐵所，出席者：委員長小林佐三郎君，八幡製鐵所長角野尙徳君外委員及隨員並幹事等52名，提出資料：鋼280—第20回製鋼部會議事録～鋼300—酸性平爐の更新大修理について等21種，議事概要：1) 優良低炭素鋼(リムド鋼，セミキルド鋼，及キルド鋼)製造法の研究，2) 銑鐵配合率に關す研究，3) 燃料の合理的使用方法の研究，4) 平爐及取鍋用耐火物の研究，5) その他の研究にいて夫々各委員の報告があり次回の議題を協議し次回は1月下旬室蘭に於て開催することを豫定した。

鑄型部會第8回鑄型研究會

期日：昭和27年11月27日，會場：日本鐵鋼連盟會議室(東京)，出席者：委員長菊池浩介君外委員及隨員並幹事等62名，提出資料：HB10鑄型の顯微鏡組織と鑄型の壽命との關係等13種，議事概要：1) 鑄型顯微鏡組織標準圖の實驗への應用，2) 第7回鑄型研究會に於ける各社の鑄型成績調査結果について，3) クレーチング防止策に關する研究，4) 鑄型形狀の改善と壽命の關係，5) その他の研究について資料提出各社委員より夫々報告があつた。次回は28年5月中旬開催の豫定である。

鑄型部會第8回ロール研究會

期日：昭和27年11月28日，會場：八幡製鐵本社 出席者：委員長菊池浩介君外委員及隨員並幹事等51名，提出資料：カリバーチルドロールについて等6種，議事概要：1) カリバーチルドロールについて，2) 20ロール使用成績について，3) ロールの荒肌調査，4) ロール使用成績に及ぼすMoの影響について，5) ボロンのチルドロールに及ぼす影響について，6) ロールの材質について，7) その他について報告及討議が行われた。次回の開催は5月中旬に豫定した。

鋼材部會第6回薄板分料會

期日：昭和27年11月12—13日，會場：日本鐵鋼連盟(12日)，日本鋼管鶴見製鐵所(13日)，出席者：主査藤本一郎君外委員及隨員並幹事等28名，提出資料：薄板に發生する疵について等8種，議事概要：1) 疵の名稱統一について，2) 燒鈍用ボックス及ペースについて 3) ロール折損防止對策，4) プリスターについて，5) 密着板の原因に對する考察，6) 薄板仕上ロール表面温度とロール摩耗とによるロールカーブの變化について等に關して各報告がありそれぞれ檢討が行われた。